

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2614102172		
法人名	医療法人 松寿会		
事業所名	グループホーム 小野		
所在地	京都府京都市山科区勸修寺閑林寺83-6		
自己評価作成日	平成22年11月9日	評価結果市町村受理日	平成23年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2614102172&amp;SCD=320">http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2614102172&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年12月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年の課題である職員の研修への取り組みについては、年間研修計画を立て多くの職員が研修の機会を得るようにした。その後に全体カンファでの伝達講習を実施できた。また全体カンファに参加出来ない職員には回覧をして周知しました。研修に対しての職員の意欲もあり、今後も現場に研修の学びを還元していきたい。新規の職員にも多くの機会を設けていきます。レクリエーションは今年に評価表を考案して実施しています。全体のレクリエーションにも個別の評価をしてそれぞれの楽しみや関心の違いを把握して介護計画の作成時やモニタリング時に役立て利用者様個別の楽しみにつながるようにと勧めています。最近希望の多い習字については用具も購入して勧めています。手作業も民謡踊りの小道具を作りリズム体操に利用して作成する目的を持って全員で勧めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する当該ホームは診療所と通所リハビリテーションが併設され、医療面での連携はもとより、行事を合同で行う等の連携が図られています。ホームでは、毎日利用者と職員が、家事や創作活動を一緒に行い、寄り添う中で思いの把握がなされており、利用者の活動性の向上に繋がっています。また観察を重視する事で、一人ひとりの得意分野での活躍や出来そうなことや興味を持たれていること等、個々の可能性を引き出しています。また、職員間での話し合いも多く、毎月の会議の他、毎日のミニカンファレンス等でケアについての困難な事柄や、疑問点、アイデア等細かな事柄まで様々な意見を出し合っています。身体拘束についての理解も深く、日常のケアを振り返り、独自の項目を定めて職員全員が自己評価を行いケアの質を高めています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	玄関、事務所内に理念を掲示して日々の業務時に意識出来るようにしている。新人の職員にもわかりやすく共有できるようにしている。広報誌にも掲載して周知している。	地域の中で一緒に生活することを第一に考えた上で、理解しやすい言葉を選びホーム独自の理念を作っている。毎回カンファレンスで理念について話し合ったり、日常の中では、家事や創作活動等、利用者と一緒にすることで、理念の達成に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1階の玄関に利用者様の作品を掲示して来客にも観てもらい交流の機会をもうけている。1階のリハビリを利用して外来の方と顔なじみになっている。前の薬局や隣の花屋を買い物に利用している。	自治会に加入し、民生委員からの情報を得て、祭りや小学校の将棋大会や区民運動会に参加したり、地域のボランティアによるハーモニカ演奏や中学生、高校生の体験学習の受け入れもしている。買い物も近隣で行い、ウインドーショッピングだけの時でも快く受け入れてもらっている。自治会長からは柿の収穫に合わせてお誘いがあり、柿狩り等で自宅へ訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の運動会参加、町内の神輿巡行の見学、町会長様とも連携を勧めている。中学、高校生を実践学習にて受け入れて、認知症の専門職としての支援を努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の消防団の運推会議の参加もあり、民生委員の方との連携も密にしている。家族様よりの意見を発言して頂きやすいようにしている。会議だけでなく、現場見学の機会も多くして向上に活かすようにしている。	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員等をメンバーとし、2か月に1回開催している。ホームの行事や活動を詳細に報告し、出席者からは意見をもらいケアに反映させる等、有意義な場となっている。事故やヒヤリハットも全て改善策まで報告し、議事録は全ての家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の方との意見交換をして実践に活かせるようにしている。ヒヤリハット報告でも具体的な取り組みについて他の事業所の例も参考にしている。市町村担当との連携は今後運営会議の資料手渡し時に面談を勧めたい。	法人の職員が運営推進会議の議事録を直接届けており、その時に必要な情報を得ている。今後は管理者が自ら出向いて交流を図りたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の委員にGH職員がメンバーとなりシートを利用して点数にて身体拘束の度合いを確認している。現在のエレベーターの暗証番号や、ベランダの窓が全開にならないなどの多くの身体拘束の認識をするようにしている。	法人の身体拘束委員会の一員となり、勉強会に参加し内容をホーム内で伝達して共有を図っている。ホーム独自でもケアの内容に当てはまる具体的な項目を作り、それに沿って自己評価を行い、日常のケアが身体拘束に当たらないかを確認している。来年度は毎月項目に沿って勉強し、更に理解を深めたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度も研修の機会を設けました。伝達講習、研修の報告書の回覧を実施、職員一人一人に十分理解されるようにする。職員はお互いに指摘を行い本人の気づきにつながるようにする。		

グループホーム 小野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護の研修にも参加した、職員よりの伝達講習の受けた。今後も認知症高齢者のその方らしい暮らしの実現に向けての勉強を施設長とも相談して、GH協議会との連携にて支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様との契約時は十分に時間を頂き説明をしている。また疑問など不十分な所は再度納得いかれるまでの説明をするようにしている。利用者様にも質問や不安がある事柄については説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運推会議に利用者様御家族様の参加機会を多く設けている。会議での意見も出やすいように工夫している。今年より御家族様よりの御協力を頂き企画の実現へと至っている。家族参加の外出のアドバイスも多くもらっている。	年に2回家族交流会を開催し、話し合う場を持つと共に、ホームの現状を見てもらった上で意見や協力が得られている。家族の面会時にも直接、意見や要望をもらっており、すぐに対応して、結果を家族に報告している。職員間では申し送りノートで共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファ、管理者会議火曜会、GHカンファの意見を会議にて発表する。日勤のリーダーを決めて報告もしている。議事録を職員に周知するようにしている。必要に応じて個別に意見も聞く機会を設けている。	会議や毎日のミニカンファレンスでは利用者のケアについてや日々の業務の内容等、細かなことまで話し合い、様々な提案がなされている。ホームでの困り事は、法人の会議で取り上げて検討し、現場にフィードバックしている。また、職員個別に聞き取りを行い、必要に応じて会議の議題にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人に向けて、管理会議にての意見や職員の個別の意見を聞いて相談報告に毎日の報告時間を利用してしている。細かな内容に対してまず依頼書に記入して提出し、審議に掛けて整備に向けて働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は年間研修計画を立て、参加出来るようにシフトの調整を行いました。法人内では伝達講習をして職員に周知をしました。また、研修報告書を回覧して参加できない職員にも周知しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入しており、他のGH見学意見交換の参加をしている。また、研修での他のGHの職員の施設の研修の受け入れもしている。GH協議会の研修会も自施設にて実施見学も行っている。悩みの意見交換もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との初回面談時に協力を依頼してセンター方式の記入をしている。介護計画を立てるまでに職員に気づきボードを利用して情報を多く収集して出来る事や、したいこと、困っていること、本人の希望を多く出せるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学を家族にしてもらい申し込みをお願いしている。判定会議の前にも本人の見学およびGHの体験をさせてから馴染めるか家族、本人の意見も伺い勧めている。入居後も外泊を取り入れ生活に慣れてもらう方法も相談している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面談や電話にて現在の状態の聞き取りを行い、本人担当ケアマネと連携をしてその時の情報の交換を密にして他のサービス向きの方には相談に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活の場面での多くの仕事を共にゆっくり行うようにしている。洗濯物干し、たたみ、盛り付け、洗い物、買い物、ごみすてなどを一緒に生活の一部としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初回面談時に聞き取りをしますが、本人の基礎情報の収集のためにセンター方式記入の協力を依頼している。本人のニーズに対しても職員と家族とでお互いに具体的な協力事項を出して希望に添いたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の外泊希望には家族との面談にて入居後は多く取り入れ自宅の馴染みの人との関係の継続に務めている。面会の制限もありませんので馴染みの方との関係の継続も支援している。	以前からの友人が訪ねてきたり、年賀状のやりとり等、今までの生活の習慣や馴染みが継続できるように支援している。家族の協力もあり、行きつけの店で食事をしたり、馴染みの美容室へ通ったりされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事以外は空いている席にて自由に談話を楽しまれている。レクリエーションでは多くの関わりもある。利用者同士の相談の時は見守るようにしている。孤立しないように職員が寄り添う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族と地域でその後の様子の報告を受けたりする。共和病院に家族が受診で来られ報告、相談の関係がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネによる面談、職員による気づきボードによる情報の収集を活用している。カンファレンスにも本人の出席にて進めるようにしている。個別の買い物も本人に選んでもらうような方法にてしている。	日常の会話や動作などから思いを把握したり、職員の日々の気づきをメモに残してカンファレンスで話し合っている。入居時に家族から得た情報を基に考察したり、困難な方には、表情や行動から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時に聞き取りをしますが、本人の基礎情報の収集のためにセンター方式記入の協力を家族に依頼している。入居時には馴染みの家具、持ち物を持参されるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートにて1日の流れのシートを利用、心身の状態のアセスメントの表を利用、個別に出来ることの把握は気づきボードを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、思いを反映するように話し合いを行っている。個別の気づきボードもチームケアとしてアイデアが多く出る。家族も面会時には見てもらえるようにボードの場所の変更をしている。	利用者の思いや家族の意向、センター方式のアセスメントを基にカンファレンスを行い、楽しく生活できるようにとの理念に沿った介護計画を立てている。看護師の意見も反映させている。3ヶ月に一度モニタリングを行いケアの評価を行い再アセスメントに繋げ介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画の実施記録もある。計画の見直し時には気づきボードのメモを活用している。カンファ時にはメモの利用をしている。職員間では申し送りノートを業務の前に読み捺印している。情報の共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2階のデイケアの企画に参加、1階のリハビリの利用、母体である共和病院と連携して、体調不良時や緊急時に対応している。1階の居宅支援との連携にて見学などに対応している。		

グループホーム 小野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との連携にて学童保育の開催の将棋大会への見学、参加の実施。区民運動会の玉入れ種目に参加実施。消防の協力の防火訓練に利用者の参加実施などの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認は必ずしている。家族、本人の希望に沿って対応はしている。	入居前からのかかりつけ医を継続できることを説明した上で、希望の主治医を決めている。以前からのかかりつけ医に通院される場合は情報提供書を渡して、医師からの指示も把握する等連携を図っている。法人が医療機関ということもあり、週に一度診察を受けている。必要に応じて歯科や眼科の往診もある。緊急時には提携医の対応が可能で、安心の医療体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護職であるために、毎日の報告申し送り時に相談している。日々の利用者の体調の変化の相談、受診の相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は病院の看護師、相談員との連携をして進めている。家族に許可を得て医師の説明時に参加して情報の収集に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状ではターミナルの出来る体制はなく重度化してくる以前に相談のうえ特養の申し込みをしています。長期の治療の必要となった場合は共和病院と連携して家族と話し合い本人にとって1番良い方法を検討している。また、ターミナルケアの研修は参加し勉強を勧めている。	重度化の場合は、法人の相談員と共に家族と話し合い、病院へ移るか、ホームで過ごすかの方向を決めている。現在、看取りの経験はないが、今後は希望があれば支援できる体制を整えたいと考えており、ターミナル研修も受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルあり。いつも見える場所に設置してある。定期的な訓練は特にない。看護職よりの施設内の研修はあり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者参加の避難訓練は年2回あり。昨年にスプリンクラーの設置済み。地域の消防団の方に運営会議に参加してもらい、協力の依頼をしている。	年に2回消防署の協力を得て法人の併設事業所と合同で避難訓練を行っている。夜間を想定し、初期消火の訓練や避難経路の確認を行っている。地域の消防団からの協力も得られている。	年に2回以外にも、法人全体ではなく独自での避難訓練を実施し、再度の確認や繰り返し訓練をされることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応の方法は新人の研修にて学んでいます。職員が日々の中で心がけていくようにしています。個人情報のついては職員の守秘義務の誓約あり。随時言葉かけや対応はカンファリングしています。研修にも参加勉強しています。	プライバシー研修を受講して、ホーム内で伝達もしている。カンファリングで議題にしたり、対応方法が気になる事柄はその場で話し合ったりしている。不適切な場面が見られるときには管理者はその都度個別に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	環境を整えてから本人の意見の出やすいようにしている。個別の外出を利用して時間をかけてゆっくり傾聴している。また、訪室時に関わりを持つように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	理念を基に支援している。本人の思いに近くよう職員は協力して、利用者の状態に合わせて柔軟に当日が天気であれば外気浴や外出希望があれば出来る限り対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内のビューティーヘルパーは希望を聞いて利用をしている。他店の希望の方は家族の協力を得て利用している。衣類の購入希望には本人との同伴にて支援している。化粧品は本人同伴にて前の薬局にて購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個別の食器も購入し充実して来ている。ランチマットも定着している。盛り付けや、米研ぎ、テーブル拭きを共にしている。個別に苦手なもの好物の聞き取りをして対応している。昼食のメニューを貼っている。	パンフレットを見ながら、利用者の希望を聞いて献立を考え、業者に食材を発注している。足りない食材がある場合は、一緒に買い物に行っている。下ごしらえや盛り付け、配膳、後片づけ等できることに携わってもらっている。音楽をかけて職員も一緒に食卓に着き、和やかな食事の時間となっている。食の楽しさを提供する為、嗜好調査も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室内にお茶を置いたり、いつでも本人の希望される時に飲めるように支援しています。1日2回のお茶の時間も設けています。フロアーに水も設置しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日朝、寝る前に声かけや誘導しています。その方に合わせた形でお手伝いしています。歯科医との連携して希望者には毎月歯科医の往診、歯科衛生士の指導を依頼しています。義歯の不具合の往診も依頼しています。		

グループホーム 小野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄のパターンに合わせて、汚染を少なく出来るように、サインを早く察知して誘導気持ちよく、排泄に至るように支援する。トイレ内も安全に移動できるように手すりの設置が5か所増設できました。	利用者の行動やサインを把握してトイレへ誘導し失敗のないように支援している。失敗が続く時は改善策を検討している。できるだけ自立できるように支援している為、紙パンツから布パンツへ移行できた方もいる。	行動やサインを見逃す事のないように、今後は排泄表を整備して、個々の排泄パターンを把握した上での誘導の検討をされてはいいかがでしょうか
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生協にて安全な食材の購入をしています。野菜を十分に摂取できるように多く購入している。調理の方法も工夫しています。水分も午前と午後の2回と食事の3回以外にも取れるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝より夕方まで入浴の準備ができています。2, 3日空いている方は声かけをしています。入浴の時間も希望される場合はおおむねしています。入浴剤も利用して楽しめるように支援しています。週に7日準備できています。	毎日入浴の準備をして午前から夕方までの希望の時間に入浴してもらっている。毎日でも可能であり、体調や意向に合わせ足浴などに変更している。拒否される時には着替えの服を選んでもらう等、声かけを工夫したり時間を変えて入浴できるように取り組んでいる。ゆず風呂や入浴剤で気分を変える事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに合わせた起床、就寝のスタイルになっています。日中も居室にて自由に個別に過ごされています。テレビも個別に居室にて楽しまれている方もあり。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個別のカルテに薬の情報が有り。薬の置き場に個別の薬の用紙あり。常に確認の出来るようにしています。服薬の変更はカルテ内の薬の情報にあり。また、申し送りノートに記入して職員には周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	GHでの個別の利用者の役割を持った生活を共に支援出来るように、ともに仕事を分け合う。屋上に洗濯もの干し、洗濯ものたたみ、ゴミ捨ての同行、盛り付け、食事の準備などをする。読書の支援は1階の書籍の貸出しの利用。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には屋上、1階の園芸への外気浴、散歩、買い物、喫茶への入居者のバランスの良い支援。個別に学童保育の将棋大会の参加の実施は家族の協力にて出来ました。個別にかたよりのないよう考慮しています。	天気のいい日には散歩に行ったり、買い物で外出している。玄関や屋上での外気浴も頻繁に行っている。家族も参加の御香宮と食事会の遠出はコスモス会と名付け楽しい思い出になっている。季節の花見や紅葉狩り等に出かけたり、併設の事業所の行事にも参加している。	

グループホーム 小野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金にて、管理はしていますが、家族本人の希望により所持されている場合もあります。万一の紛失の場合の了承を頂いています。買い物の際は本人の支払いなどの援助はあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、家族の協力を得て出来る限り実施しています。ただ仕事で不在の場合もあるために、時間の制約はあります。年賀状については全員に支援しています。公衆電話の利用もあり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事時間以外は席は決めていません。カレンダーも日めくりで替えられています。毎月の企画の掲示もしています。季節の手作業の作品も掲示している。玄関には、1階の園芸の花の盛り花もあります。	リビングには観葉植物や生花、利用者の作品、行事時の写真等を飾っている。飾り付けを工夫して季節感も出している。椅子のカバーの張り替えでホーム内が明るくなり、テレビの買い換えで画面が大きくなり、利用者からは見やすくなったと喜ばれている。ソファークォーターでは一人でゆっくり過ごすことができるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側にソファがあり、テレビもあります。台所にも椅子も利用できます。観葉植物にて区切もできています。テレビの棚には書籍もあり自由に見ることもできます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのダンスや、のれん、冷蔵庫などを置かれている。また、写真も貼られている。好みの書籍の棚も置かれています。	入居前から使い慣れた家具や馴染みの物を持って来てもらっている。ベッドや布団で休まれるなど個々のスタイルに合わせて生活できるように支援している。家族の写真や花、手作りの品を飾る等その人らしい居室作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴は浴槽にて浸かれるように手すりが設置しており安全に使用出来ます。トイレにも5か所手すりが増設しました。さらに安全に生活できるようにになりました。		